

## 長野県75歳未満がん年齢調整死亡率順位低下の要因についての考察

長野県がん登録室

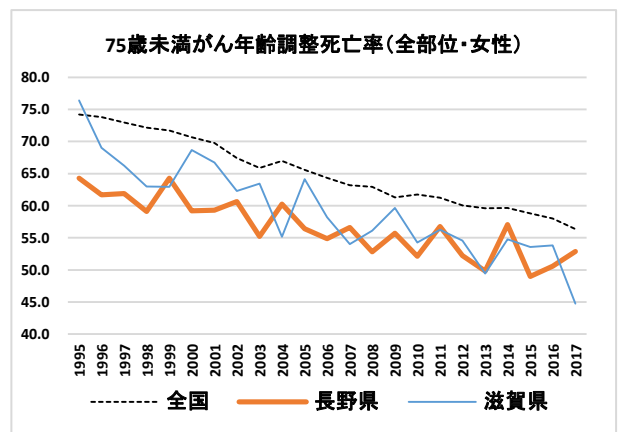
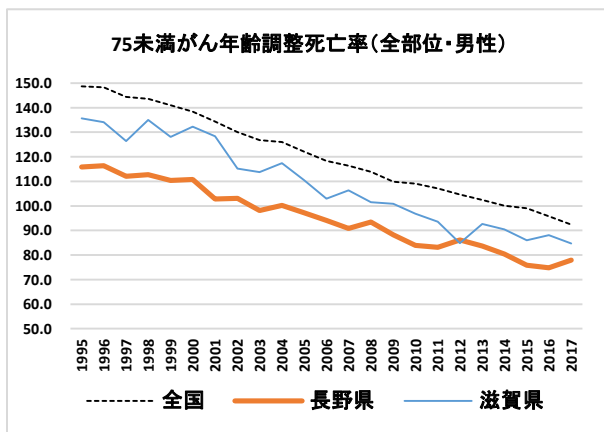
長野県の75歳未満がん年齢調整死亡率（全部位・男女計）は、統計を開始した1995年以降、22年間全国最低を維持してきたが、**2017年の最新統計では初めて滋賀県に次ぎ2位となった。**

性別にみると、男性は滋賀県に次ぎ2位であった2012年を除き、一貫して全国最低を維持しており、全国と比較しても死亡率が大幅に低い状態が続いている。

一方、女性の都道府県内順位は最高1位から最低15位まで年毎に変動があり、全国と比較して死亡率が低い状態を維持しているもののその差は縮小してきている。反面、滋賀県は女性の死亡率の年次低下が著しい。

**今回男女計で2位となった背景には、男性の死亡率の圧倒的な低さを女性の死亡率で維持することが難しくなってきたこと、滋賀県女性の死亡率が2017年は極端に低かったことなどが影響していると考えられる。**

なお、長野県のがん年齢調整死亡率（全部位・男女計）は**全年齢で見ると2017年も全国最低であり、死亡率の上昇は若い世代でより顕著であると考えられる。**



死亡率に影響する因子として①罹患率②早期発見率③医療の質の3点が挙げられる。

最新の2016年全国がん登録データでは、長野県のがん年齢調整罹患率（全部位・男女計）は全国と比較して著しく低く、全都道府県中3位であり、性別にみても男性は全国最低、女性も全都道府県中6番目に低いため、長野県のがん罹患率は全体として高いとはいえない。

**罹患率が低いにも係らず死亡率が悪化した要因としては、がんの2次予防に問題がある可能性がある。**また、75歳未満年齢調整死亡率の上昇に関しては、がんの年齢分布も影響を与えると考えられるため、今後年齢階級別の罹患率・死亡率の年次推移分析が必要である。

この10年を振り返り死亡率を部位別に見ると、特に女性の大腸、膵臓、子宮で全国と比較して死亡率が増加している（別紙参照）。これらの部位はもともと女性の死亡数が多い部位であり、死亡率悪化への寄与が大きいと考えられる。

**特にこれらのがん種に対して2次予防策(検診率上昇、早期発見例増加を目標)への早急な対策が望まれる。**